

# JAPONisme

ジャポニスム

ジャポニスム振興会発行

2014/春  
vol. 1  
創刊号

日本人の  
心と花



ジャポニスム振興会

## 発足の言葉



明治維新以後の急速な西欧化と大戦を経て経済大国となった日本。しかし今、日本は自信を失っているように思えます。経済の失速や大きい自然災害を経験してなお、多くの日本人が平和と豊かさを享受しているのに、幸せ度を聞くと、自分を幸せであると答える人が驚くほど少ないのはなぜでしょう。

明治維新のころ日本を訪れた西欧人は、日本人の礼儀正しさと節度あるふるまい、町並みの清潔さに感嘆の声をあげています。

では、よき日本人を育んだのはなんだったのでしょうか。今またそれを失っているから、人は物質的に恵まれていても幸せを実感できないのではないのでしょうか。幸せは、ものだけがもたらすものではないのですね。

日本には、失いたくない美なる伝統工芸や芸事、心の文化があります。今一度それに目を向け、多くの人に知らしめるべく、「ジャポニスム振興会」は発足しました。とはいえ、決して大げさなことではありません。日常の小さい美しいものや事象に目を向けることから「気づき」を得て、最初の一步を踏み出すことから始めてはいかがでしょう。

日本人の心には、豊かな自然と調和し、他者や異文化を





排斥しない「和の精神」を基底とした神仏の教えが備わっています。

日本の心と文化を伝える。すなわちそれは神仏の教えと知恵を伝えることと言っても過言ではありません。

今あることへの感謝の気持ち、多くの人びととの縁（えにし）を感じつつ生きることの、なんとよるこばしいことでしょう。

美しい日本に今一度焦点を当てることにより、「日本のところと文化」を見つめ直し、日本人としての誇りを持ち続けてほしいと「ジャポニスム振興会」は願っています。

#### ●ジャポニスムとは

十九世紀中ごろから世紀末にかけて、ヨーロッパ文化人の中で日本趣味が流行しました。これを「ジャポニスム」と呼びます。

十九世紀後半、日本の開国とパリ万国博覧会への出席を契機にフランスでジャポニスムが起り、一大潮流となって世界の文化、芸術を圧倒します。日本ブームの立役者となったのは葛飾北斎に代表される浮世絵や美術品、伝統産業品でした。

そして、モネ、マネ、ゴッホ、ガレ等、西洋の芸術家たちに多大な影響を及ぼし、新たな芸術運動である印象派やアールヌーヴォーの原動力となります。

また、工芸の世界でもジャポニスム旋風が巻き起こりました。ルイ・ヴィトンのダミエやモノグラム、マイセンの陶器が日本の家紋や焼物の絵付けをヒントに作られたのは、知られるところでは、

そして、この日本の伝統美の造形原理が、実は現代のデザインという考え方の起源となり、世界的に標準化されていることも認識すべきでしょう。西洋の収集家による単なる珍品主義ではなく、日本文化そのものが西洋の文化と芸術にルネサンス以来の大変革をもたらしたダイナミックな運動、それが「ジャポニスム」です。



ジャポニスム振興会

◎会長

大谷暢順（本願寺維持財団理事長）

◎副会長

大谷祥子（筆曲家）

◎特別顧問

加賀乙彦（作家・文化功労者）

中西進（日本文学・比較文学者・文化勲章受章）

芳賀徹（比較文学者・東京大学名誉教授）

山折哲雄（宗教学者・国際日本文化研究センター名誉教授）